

建物構造体の耐震補強により安全・安心な教育研究環境を確保 (福岡県筑後市)

事業者：学校法人真宗大谷学園



写真：耐震補強工事前



写真：耐震補強工事後



対策名：No.22 学校施設等の構造体の耐震化に関する緊急対策

事業名：体育館耐震補強事業

ポイント ● 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い体育館の構造体の耐震化により、多くの学生等が利用する本施設の安全性を確保

地域の概要・課題

対策を行った体育館は、昭和55年に建設されたものであり、耐震診断の結果、構造耐震指標Is値が0.24であり、地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い建物であることが明らかとなりました。構造耐震指標Is値は、構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性を評価するものであり、当該数値が0.3未満の場合、その建物は、地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い評価となります。

事業の概要

学校の施設は学生等が日常的に利用するものであり、教育研究活動の継続性の観点から、工事を早期に完了する必要があります。このことから、比較的工期が短く、工事費が安価な枠付鉄骨ブレースを外壁等に設置（一部開口閉塞）する工法により補強工事を実施しました。

【見込まれる効果】

構造体の耐震化を行ったことにより、大規模な地震が発生した場合に倒壊等の被害を防ぎ、学生等にとって安全・安心な教育研究環境を確保することができます。

また、これにより、将来的に体育館等を災害時の避難所として活用することが可能となります。